

2021



寄稿

Contribution

トヨタ博物館、産業史展示室の新設と 富士モータースポーツミュージアムを設立



トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 部長 兼
トヨタ博物館 館長

布垣 直昭

Naoaki Nunogaki

トヨタ博物館新展示室 「日本の自動車産業史コーナー」

「どうやって小さな日本にこれほど巨大な自動車産業が生まれたのか？」インバウンドの来館者が増加するにつれ、こうした質問を受ける機会が増えてきた。また、“100年に一度の産業大変革期”という言葉が、メディアに度々登場すると国内の方々からも自動車産業史に関するお問い合わせを受けるようになった。こうした声にお応えするためにもトヨタ博物館では2022年春のオープンに向け、新たな展示室「日本の自動車産業史コーナー」の準備を進めている。

展示室内の構成 展示構成は下記のとおりとし限られたスペースで分かりやすく、そして興味深く歴史を知っていただくため各種デジタル機器を活用した。

①デジタル年表(ヒストリー・ロード)

展示室中央に自動車の移入から現代までの約200項目の史実を網羅した動く年表。特に重要な事項には、映像演出を加

えて興味喚起。

②歴史物語

自動車づくりの始まりから産業基盤の確立までをデジタルサイネージを用いた4章編成のショートムービーで紹介。

③人物

産業史上のキーパーソンの生い立ち／功績／言葉などをデジタル端末で任意に抽出。

④企業系譜

現存する自動車メーカー12社の前史時代を含めた成り立ちを知る系譜図。

⑤数字で知る産業史

最初の1台から現代まで国産車の生産台数推移を軸に産業の成長を示す数値を掲出。

自動車産業の未来のために コンテンツの編集にあたっては、多くの来訪者に産業へ関心を持っていただけるよう、中学校程度の日本史知識があれば理解できる内容を心掛けた。展示



新展示室の俯瞰イメージ

歴史物語ゾーンのイメージ



入室時のイメージ

人物ゾーンのイメージ



室と館内の自動車展示を合わせて見学いただければそれぞれの自動車の誕生の背景など、より深く楽しく鑑賞いただけると思う。また、高校日本史などの教材としても活用いただけるよう、地域の教育委員会へも広報活動を図っていきたい。さらに何よりも今自動車産業に身を置く多くの方々に自分たちの産業の来し方、先の見えない中で決意をもって自動車づくりに挑み続けた先人たちのことを是非知っていただき、混とんとした先の未来を考える糧にしていただけたいなら、これ以上の喜びはない。

準備は現在佳境を迎えており、今後自動車メーカー各社にも協力いただきながら仕上げに向かうことになるが、トヨタ博物館の設立趣旨である「歴史に学び、未来を想う。」一助になれることを胸に動しんでいきたいと思う。

(産業史展示担当主幹 鳥居十和樹)

モータースポーツと ホスピタリティーの融合

日本を代表する国際サーキットの一つである富士スピードウェイの隣接地に2022年秋、モータースポーツの魅力発信をサポートする富士スピードウェイホテル(写真①：ハイアットの日本初上陸ブランド「アンバウンドコレクション by Hyatt」)及び、モータースポーツのミュージアムがオープンする。

「富士モータースポーツミュージアム(写真②)」(トヨタ博物館監修)ミュージアムは全3フロアで構成、うち1階と2階が展示スペースとなる。120年以上にわたり世界の自動車メーカーが威信をかけて挑んできたモータースポーツの歴史を、メーカー各社のご協力により、時代を象徴するレーシングカー約40台の展示でたどる。あわせて「いいクルマづくり」「モノづくり」の視点で、その開発に携わった人々の熱い想いや、

こだわりもご紹介する。

1階の展示は1890年代、欧米で開催されたモータースポーツ黎明期の紹介から始まる(写真③)。馬車に代わる新しい移動手段の動力源、蒸気、電気、内燃機関の中でどれが一番相応しいのか決着をつけようとするところから、自動車レースが誕生した。モータースポーツは、まさに現在のモビリティ転換期と同様の大きな変革期に始まったと言える。

そして、量産メーカーの創業者にして技術者であるH.Ford氏、F.Porsche氏、本田宗一郎氏、豊田喜一郎氏それぞれの、クルマづくりとレースへの思いについて、その裏に隠された物語なども紹介。アジア、日本でのモータースポーツの幕開けなどにも触れることになる。

2階では世界のラリーや、耐久レースで活躍したクルマなど、モータースポーツがクルマの進化を促してきたことを紹介する(写真④)。さらに世界記録への挑戦のコーナーや、技術展示なども計画している。一部の展示コーナーでは当時の映像、写真なども紹介。モータースポーツの歴史とドラマを楽しんでいただきながら、その技術は脈々と市販車に受け継がれ、そして現代から未来のモータースポーツへと繋がっていくことをご理解頂ける発信拠点になればと考えている。

3階にはお客様にくつろいでいただけるCafe & Shopを併設し、そのテラスから富士スピードウェイの最終コーナーの眺望を楽しんで頂けます。2022年の秋頃の開館を予定し、準備を進めているところです。

この場を借りて関係メーカー様はじめ多くの方々のご協力に感謝申し上げますと共に、完成のあかつきにはぜひご来場賜りますと幸いです。

(FMMプロジェクトグループ長 富岡修)



写真①



写真②



写真③



写真④